

2018年10月31日
株式会社日本政策金融公庫

第198回 信用保証利用企業動向調査結果の概要

(2018年7～9月期実績、10～12月期見通し)

**【概況】信用保証利用企業の資金繰りは、やや悪化している。
～景況はやや悪化しているが、先行きについては持ち直しの見込み～**

- 【金融関連】
- 資金繰りD.I.は、▲5.8とマイナス幅がやや拡大し、3期連続で悪化した。
 - 借入難易感D.I.は、2.3と横ばいとなり、8期連続でプラスとなった。
 - 今期に借入を実施した企業の割合は、横ばいとなった。
- 【保証利用】
- 今期に借入を実施した企業のうち、保証を利用した企業の割合は、やや減少した。
 - 来期(18年10～12月)における保証利用要請D.I.は、0.5と横ばいとなった。
※ 保証利用要請D.I. …金融機関による保証利用要請が「強くなると思う」企業の割合－「弱くなると思う」企業の割合。
- 【生産等】
- 生産・売上D.I.は、マイナス幅がやや拡大し、▲5.0となった。
 - 採算D.I.は、▲6.3と横ばいとなった。
- 【特別調査】「信用保証利用企業が抱える経営課題及び経営支援について」
- 信用保証利用企業の96.3%が経営課題を抱えており、経営課題の内容は「人材の確保・育成(後継者対策含む)」が最多となっている。
 - 「経営課題がある」と回答した企業に、その相談相手を尋ねたところ、「税理士・公認会計士」が最多。一方、「相談している機関はない」と回答した企業の割合は3割を超えている。
 - 経営課題を「相談している機関はない」と回答した企業に、その理由を尋ねたところ、「相談の必要がないため(自社で解決可能等)」、「相談しても効果が少ないと思うため」がいずれも4割を超え、「どこに相談すればよいかわからないため」が約2割と続いている。
 - 経営課題を相談していない理由を従業員規模別にみると、「0-2人」では、「相談の必要がないため(自社で解決可能等)」の割合は、相対的に低い。一方、「どこに相談すればよいかわからないため」、「費用負担が懸念されるため」及び「相談する時間がないため」の割合は、相対的に高くなっている。
 - 金融機関や信用保証協会に求める経営支援については、「地方公共団体の補助金・制度融資に係る情報提供」が最多となっている。

<調査の要領>

調査時点	2018年9月中旬
調査対象	9地域(北海道、宮城、東京、愛知、石川、大阪、広島、香川、福岡)の信用保証協会利用先 16,000企業を対象としており、 回答企業の約80%が従業員20人以下の小規模企業 となっています。
有効回答企業数	3,843企業
回答率	24.0%

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 中小企業事業本部 保険企画部 Tel:03-3270-2384(担当:山嶋、土田、佐藤)
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

(1) 資金繰り

・資金繰りD.I.は、▲5.8とマイナス幅がやや拡大し、3期連続で悪化した。

		2017/7-9	10-12	2018/1-3	4-6	7-9	10-12
資金繰りD.I.	実績	▲5.9	▲2.2	▲3.2	▲4.7	▲5.8	
	見通し	▲1.0	0.1	2.1	▲0.7	▲1.9	▲0.7

(注) 前期比。資金繰りD.I.は、「好転」企業の割合-「悪化」企業の割合。季節調整値。

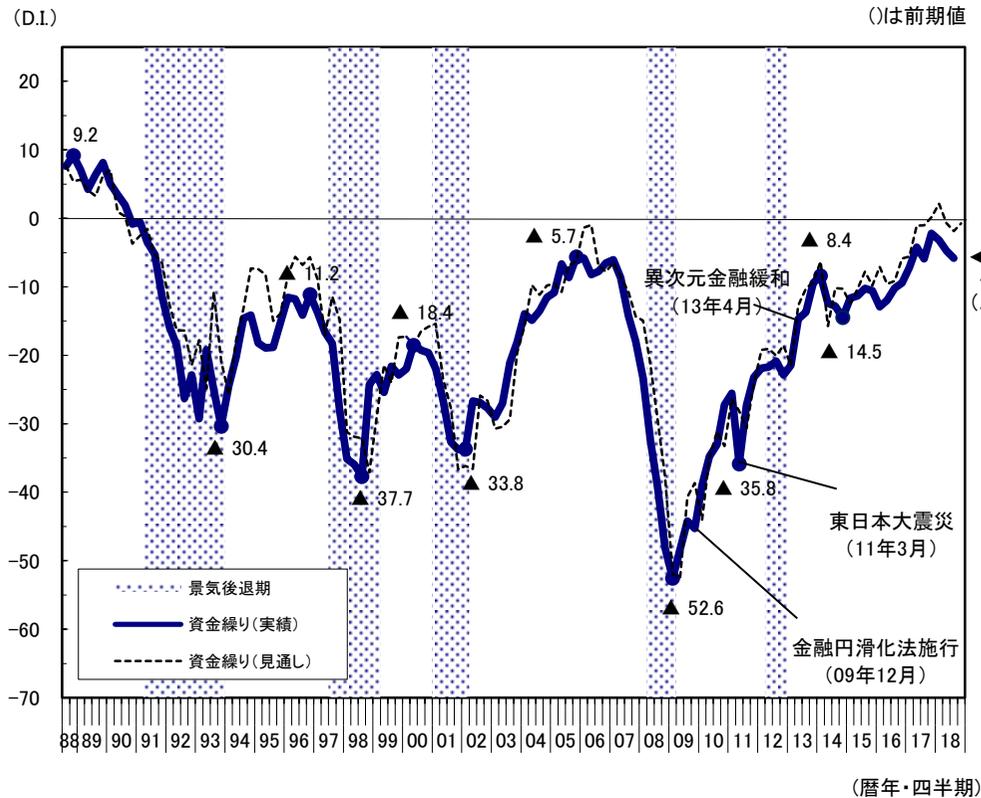
(2) 借入難易感

・借入難易感D.I.は、2.3と横ばいとなり、8期連続でプラスとなった。

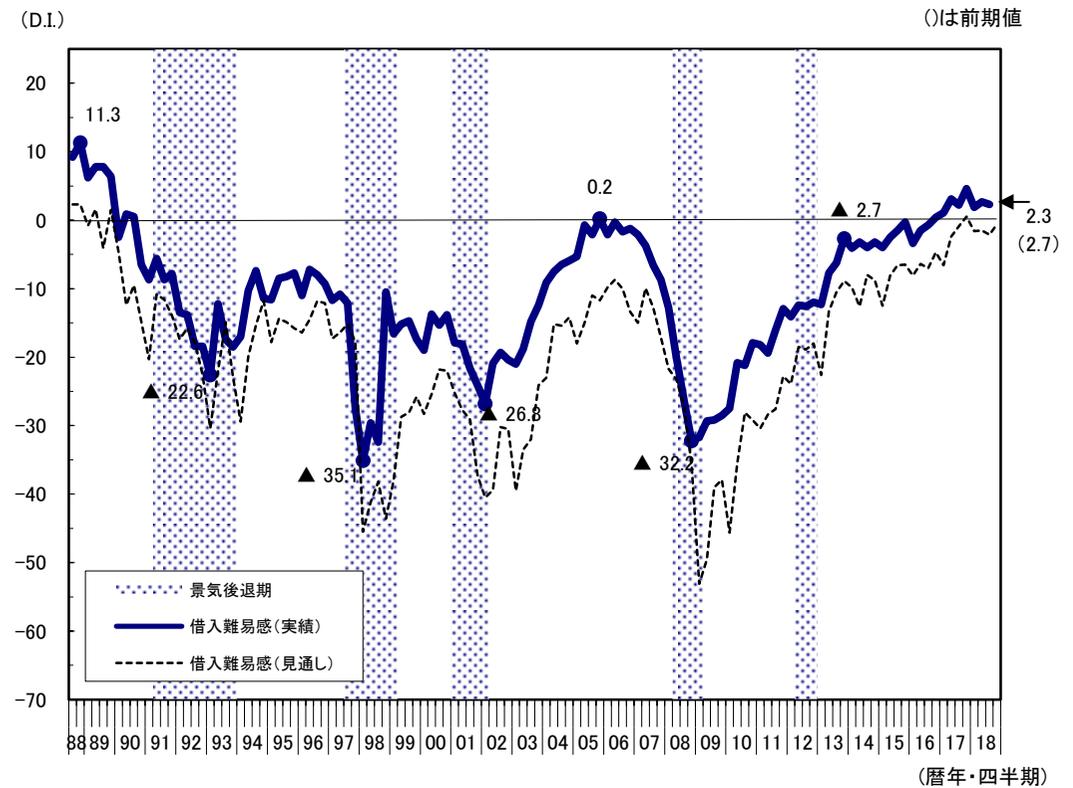
		2017/7-9	10-12	2018/1-3	4-6	7-9	10-12
借入難易感D.I.	実績	2.2	4.6	1.9	2.7	2.3	
	見通し	▲0.9	0.5	▲1.6	▲1.5	▲2.1	▲0.6

(注) 前期比。借入難易感D.I.は、「容易」企業の割合-「困難」企業の割合。原数値。

資金繰りD.I.(季節調整値)の推移



借入難易感D.I.の推移



(3) 借入状況

・今期に借入を実施した企業の割合は、横ばいとなった。

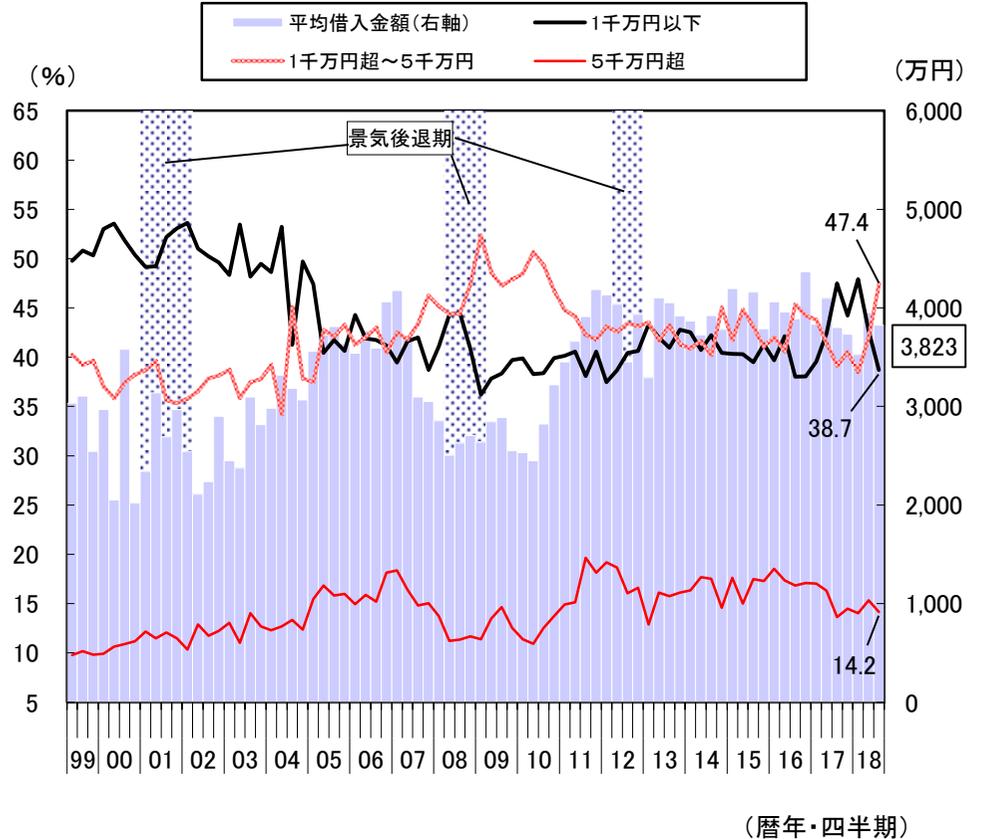
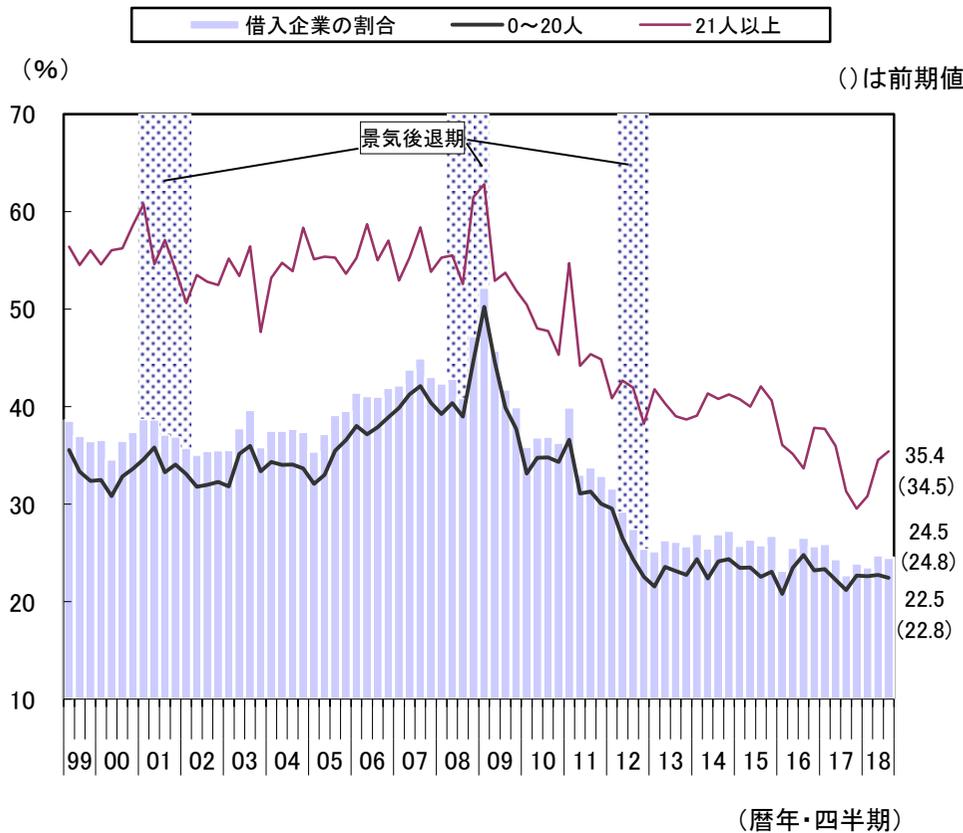
・一社あたりの借入金額別構成比は、「1千万円以下」及び「5千万円超」がやや減少した一方で、「1千万円超～5千万円」が増加した。

① 借入を実施した企業の割合(季節調整値)

	2017/7-9	10-12	2018/1-3	4-6	7-9
借入企業の割合	22.7	24.0	23.5	24.8	24.5
0-20人	21.2	22.7	22.6	22.8	22.5
21人以上	31.3	29.5	30.8	34.5	35.4

② 一社あたりの借入金額別構成比(季節調整値)

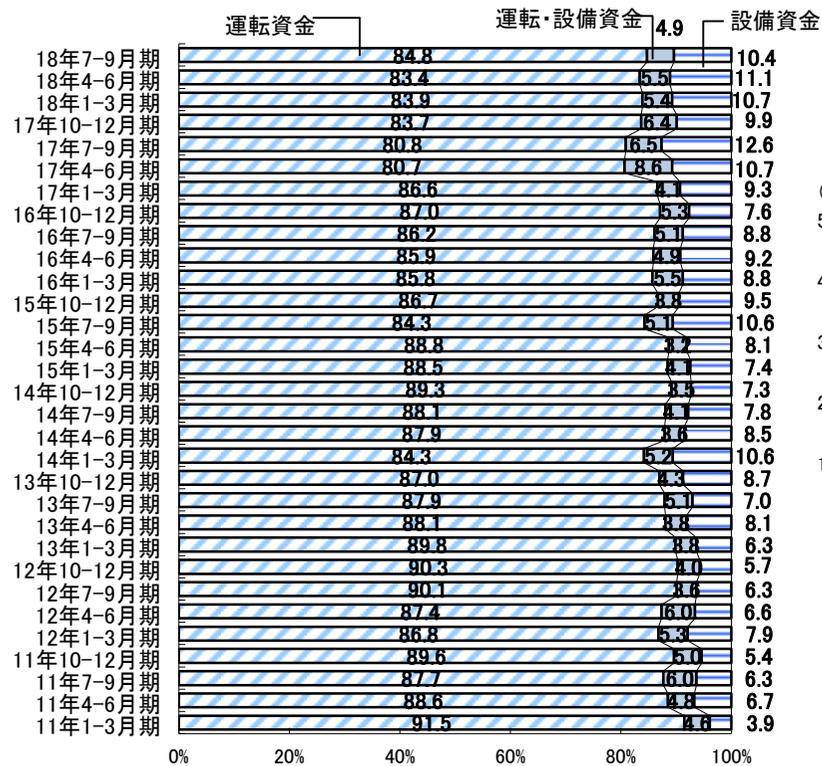
	2017/7-9	10-12	2018/1-3	4-6	7-9
1千万円以下	47.5	44.2	47.9	42.7	38.7
1千万円超～5千万円	39.1	40.5	38.5	42.0	47.4
5千万円超	13.6	14.5	14.0	15.3	14.2



(注)「借入」は、信用保証を利用した借入と信用保証を利用していない借入を合計したものである。

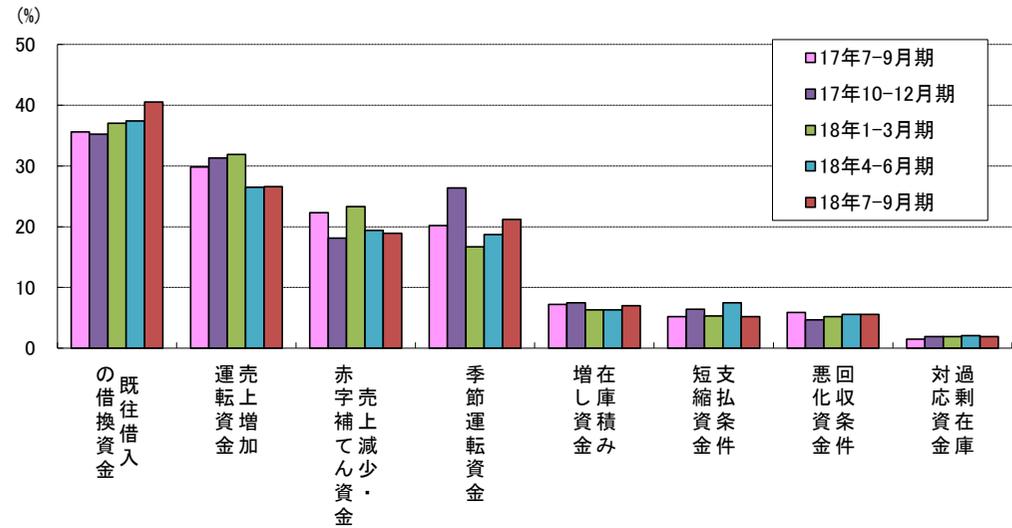
・資金用途については、設備資金が10%を上回り、引き続き高い水準となっている。

③-1 資金用途の構成



③-2 運転資金の内訳

(原数値)	既往借入の借換資金	売上増加運転資金	売上減少・赤字補てん資金	季節運転資金	在庫積み増し資金	支払条件短縮資金	回収条件悪化資金	過剰在庫対応資金	
18年	7-9月期	40.5	26.6	18.9	21.2	7.0	5.2	5.6	1.9
	4-6月期	37.4	26.5	19.4	18.7	6.3	7.5	5.6	2.1
	1-3月期	37.0	31.9	23.3	16.7	6.3	5.3	5.2	1.9
17年	10-12月期	35.2	31.3	18.1	26.4	7.5	6.4	4.7	1.9
	7-9月期	35.6	29.8	22.3	20.2	7.2	5.2	5.9	1.5



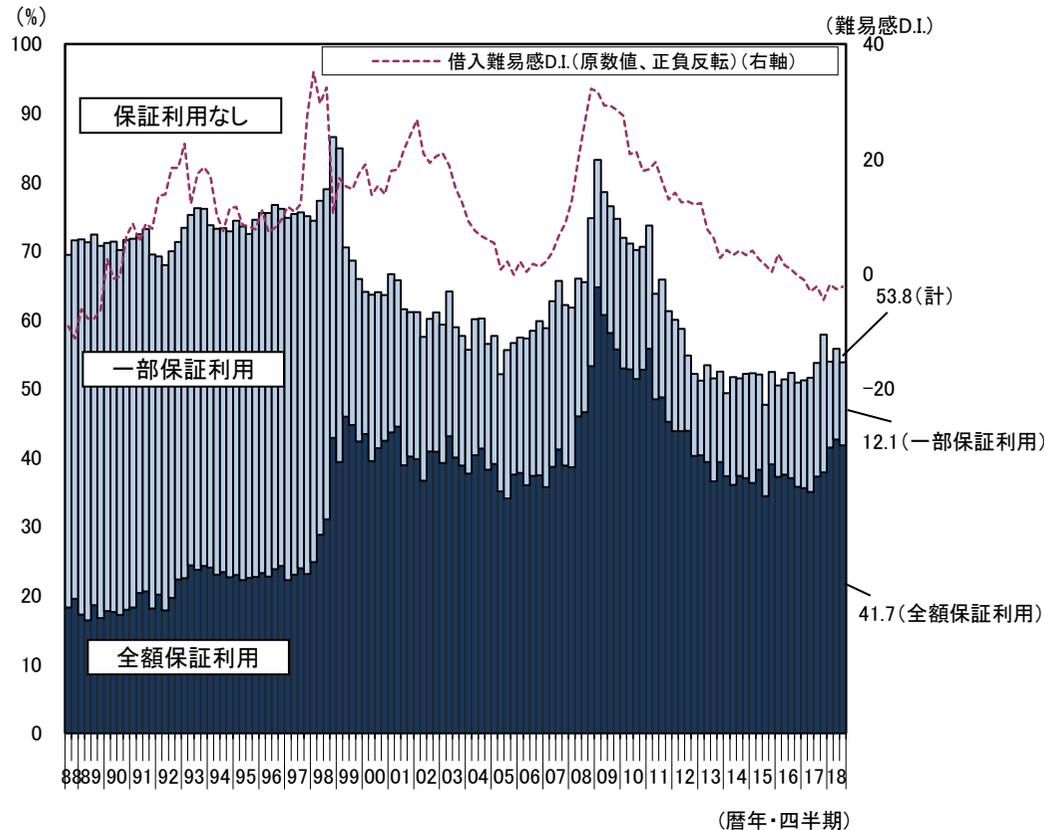
(注) 1.複数回答のため、合計は100を超える。
2.「資金用途」は、信用保証を利用した借入と信用保証を利用していない借入を合計した借入金に係るものである。

(4) - 1 保証利用状況

・今期に借入を実施した企業のうち、保証を利用した企業の割合は、やや減少した。保証利用割合別にみると、「全額利用」は横ばいである一方、「一部利用」はやや減少した。

	2017/7-9	10-12	2018/1-3	4-6	7-9
保証利用企業の割合	53.7	57.8	53.9	55.8	53.8
全額利用	37.2	37.8	41.4	42.6	41.7
一部利用	16.5	20.0	12.5	13.2	12.1
保証利用がない企業の割合	46.3	42.2	46.1	44.2	46.2

借入企業に対する保証利用企業の割合(季節調整値)



(注)当該四半期中に新規借入を行った企業数について、「保証利用なし」、「保証付きの借入のみ(全額保証利用)」、「保証付きの借入と保証を利用しない借入を併用(一部保証利用)」の区分で集計したものの。

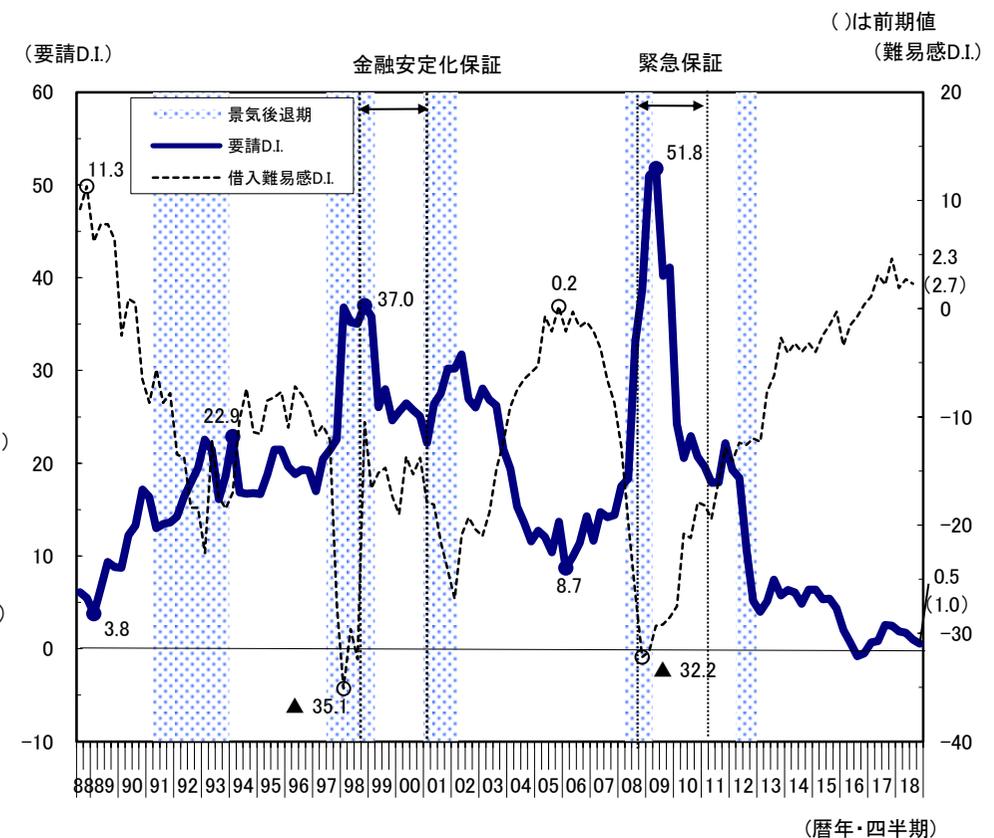
(4) - 2 金融機関からの保証利用要請

・来期(18年10~12月)における保証利用要請D.I.は、0.5と横ばいとなった。

	2017/7-9	10-12	2018/1-3	4-6	7-9	10-12
要請D.I. 見通し	2.5	2.5	1.9	1.7	1.0	0.5
借入難易感D.I. 実績	2.2	4.6	1.9	2.7	2.3	

(注) 1.前期比。要請D.I.は、「強くなると思う」企業の割合-「弱くなると思う」企業の割合。季節調整値。
2.借入難易感D.I.は、「容易」企業の割合-「困難」企業の割合。原数値。

金融機関からの要請D.I.(季節調整値)及び借入難易感D.I.の推移



(5) 生産・売上

・生産・売上D.I.は、マイナス幅がやや拡大し、▲5.0となった。

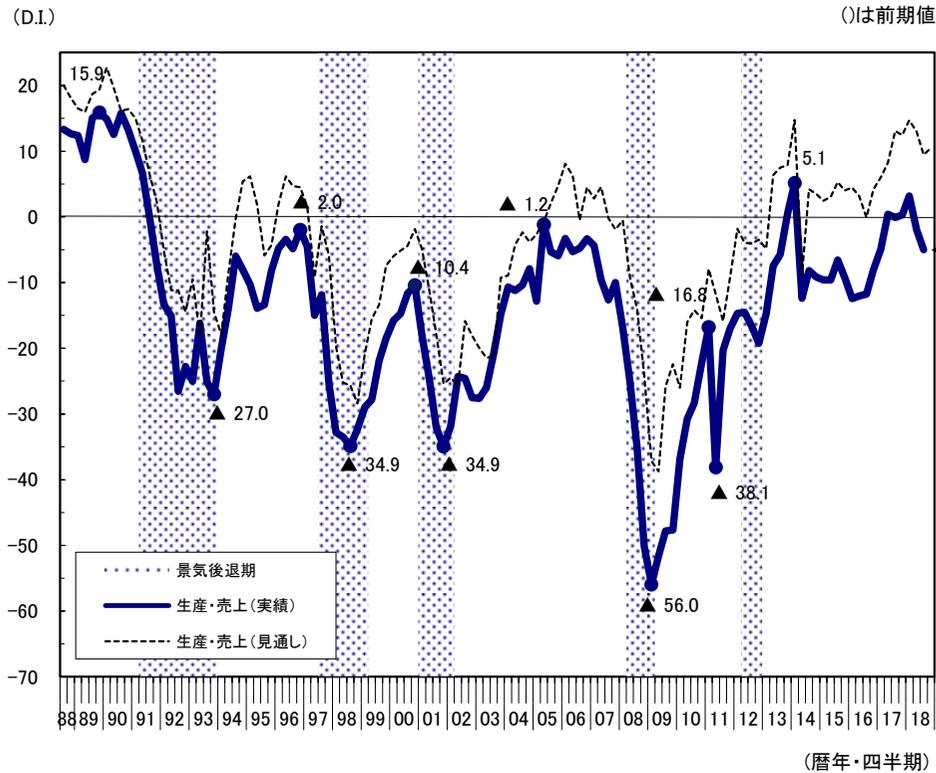
		2017/7-9	10-12	2018/1-3	4-6	7-9	10-12
生産・売上D.I.	実績	▲0.1	0.3	3.2	▲2.0	▲5.0	
	見通し	13.1	12.5	14.7	13.0	9.5	10.5

(注) 前期比。生産・売上D.I.は、「増加」企業の割合-「減少」企業の割合。季節調整値。

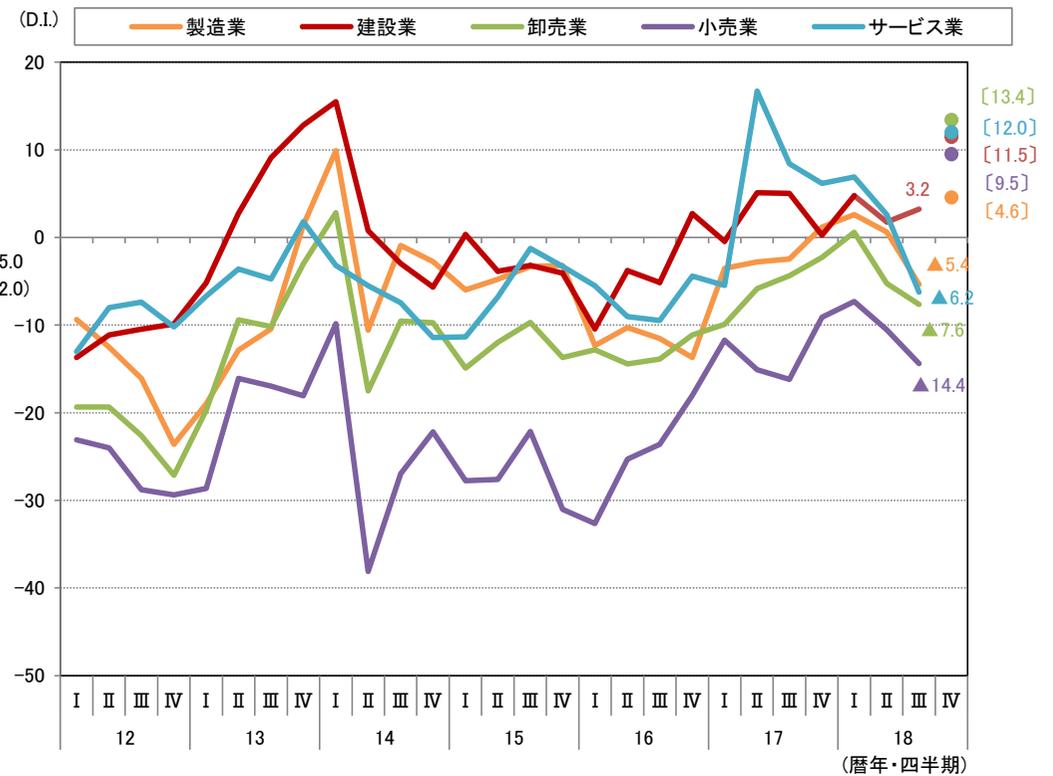
生産・売上（業種別）

・生産・売上D.I.(業種別)は、建設業がやや上昇した一方で、製造業及びサービス業がマイナスに転じた。
また、卸売業及び小売業では、マイナス幅がやや拡大した。

生産・売上D.I.(季節調整値)の推移



業種別生産・売上D.I.(季節調整値)の推移

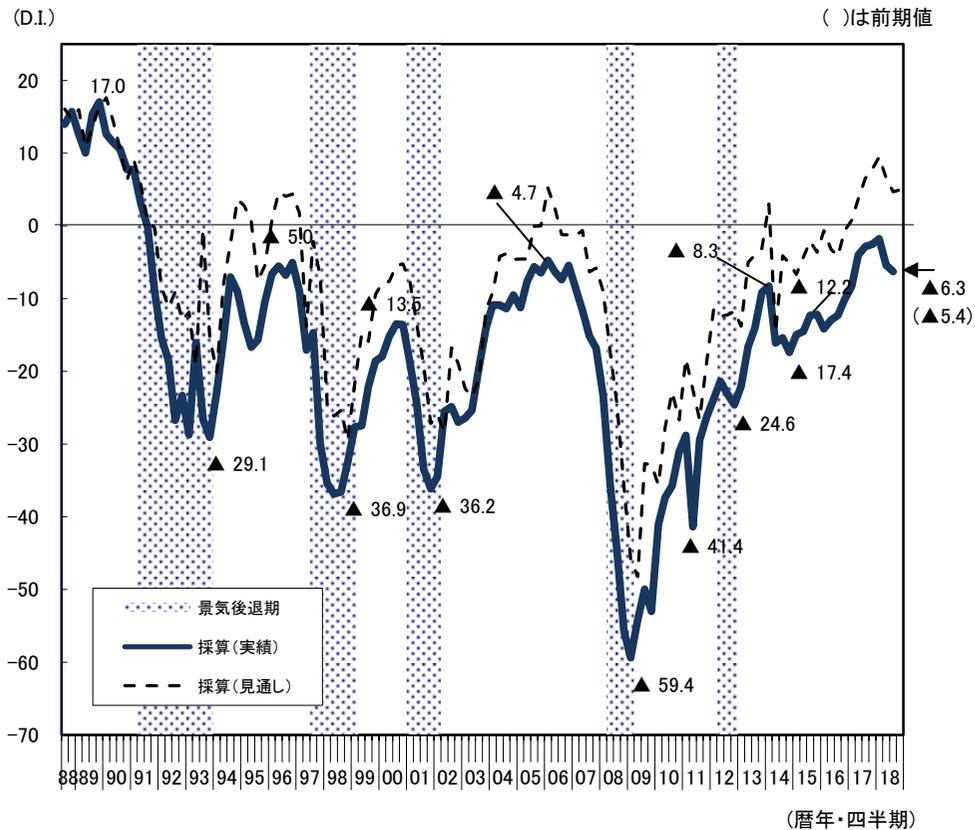


(6) 採算

・採算D.I.は、▲6.3と横ばいとなった。

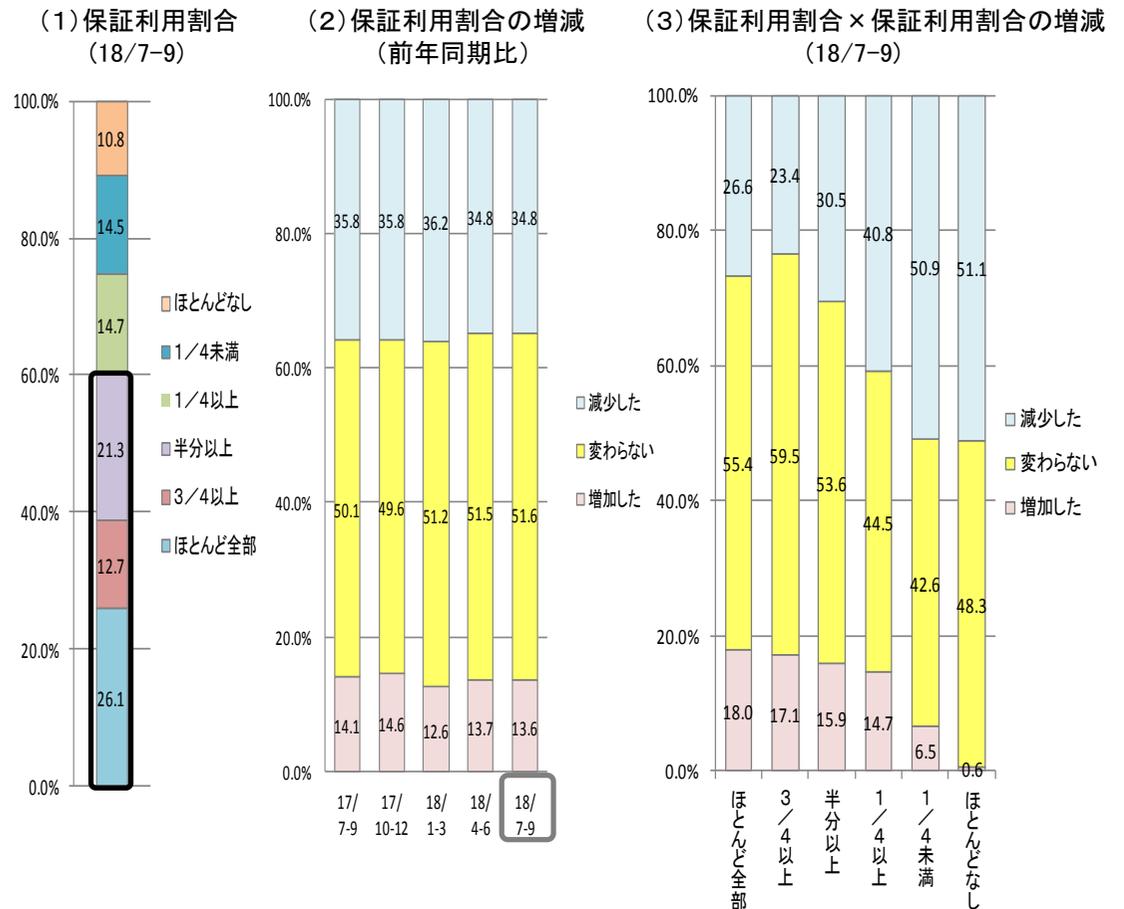
		2017/7-9	10-12	2018/1-3	4-6	7-9	10-12
採算D.I.	実績	▲2.9	▲2.5	▲1.8	▲5.4	▲6.3	
	見通し	6.5	7.8	9.5	6.6	4.7	4.9

(注) 前期比。採算D.I.は、「好転」企業の割合-「悪化」企業の割合。季節調整値。



(参考) 保証利用割合

- ・借入総残高に占める信用保証利用の割合については、半分以上と回答した企業が約6割となった。
- ・前年同期末と比べた信用保証利用の割合の増減については、減少したと回答した企業が34.8%、変わらないが51.6%、増加したが13.6%となった。
- ・借入総残高に占める信用保証利用の割合が少ないほど、前年同期末と比べて信用保証利用の割合が減少する企業が多くなる傾向がみられた。

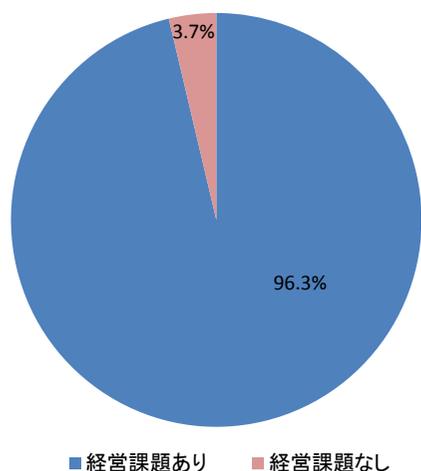


特別調査

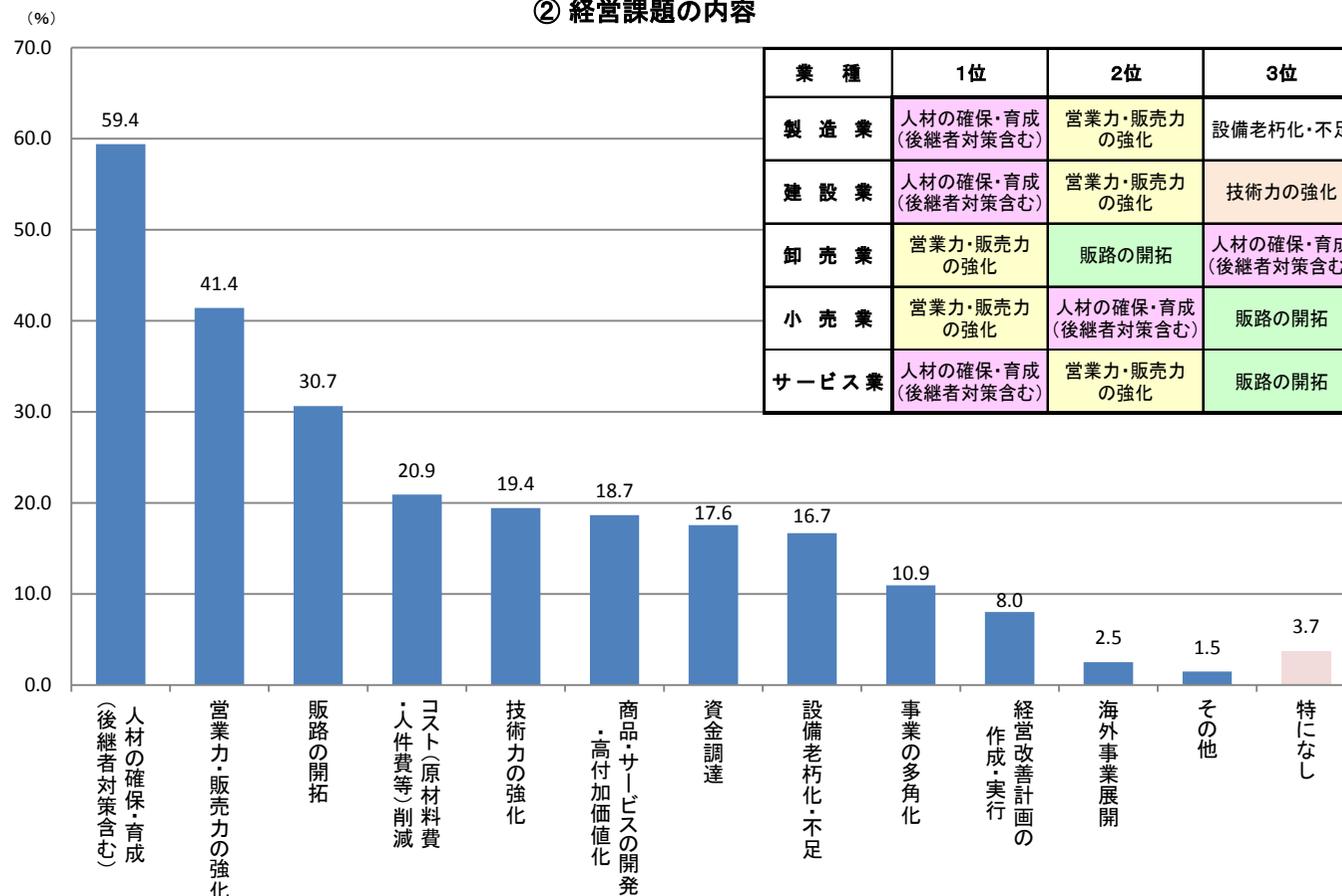
(1) 信用保証利用企業が抱えている経営課題について

- ・信用保証利用企業の経営課題の有無については、96.3%の企業が経営課題を抱えている。
- ・経営課題については、「人材の確保・育成(後継者対策含む)」が最多。次いで、「営業力・販売力の強化」、「販路の開拓」となっている。
- ・業種別にみると、製造業、建設業、サービス業では「人材の確保・育成(後継者対策含む)」が最多。卸売業、小売業では「営業力・販売力の強化」が最多となっている。

① 経営課題の有無



② 経営課題の内容



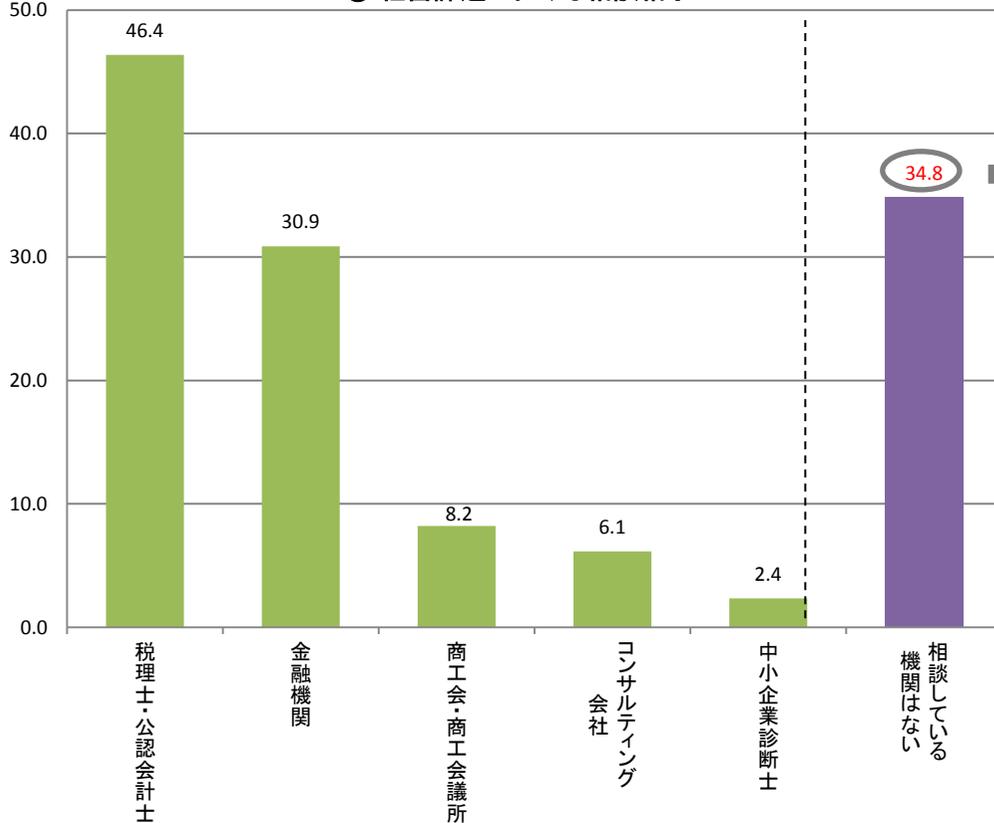
(注) 複数回答のため、合計は100%を超える。

特別調査

(2) 信用保証利用企業の経営課題における相談相手について

- ・「経営課題がある」と回答した企業に、その相談相手を尋ねたところ、「税理士・公認会計士」が最多。次いで、「金融機関」、「商工会・商工会議所」となっている。一方、「相談している機関はない」と回答した企業の割合は3割を超えている。
- ・経営課題を「相談している機関はない」と回答した企業に、その理由を尋ねたところ、「相談の必要がないため(自社で解決可能等)」、「相談しても効果が少ないと思うため」がいずれも4割を超え、「どこに相談すればよいかわからないため」が約2割と続いている。

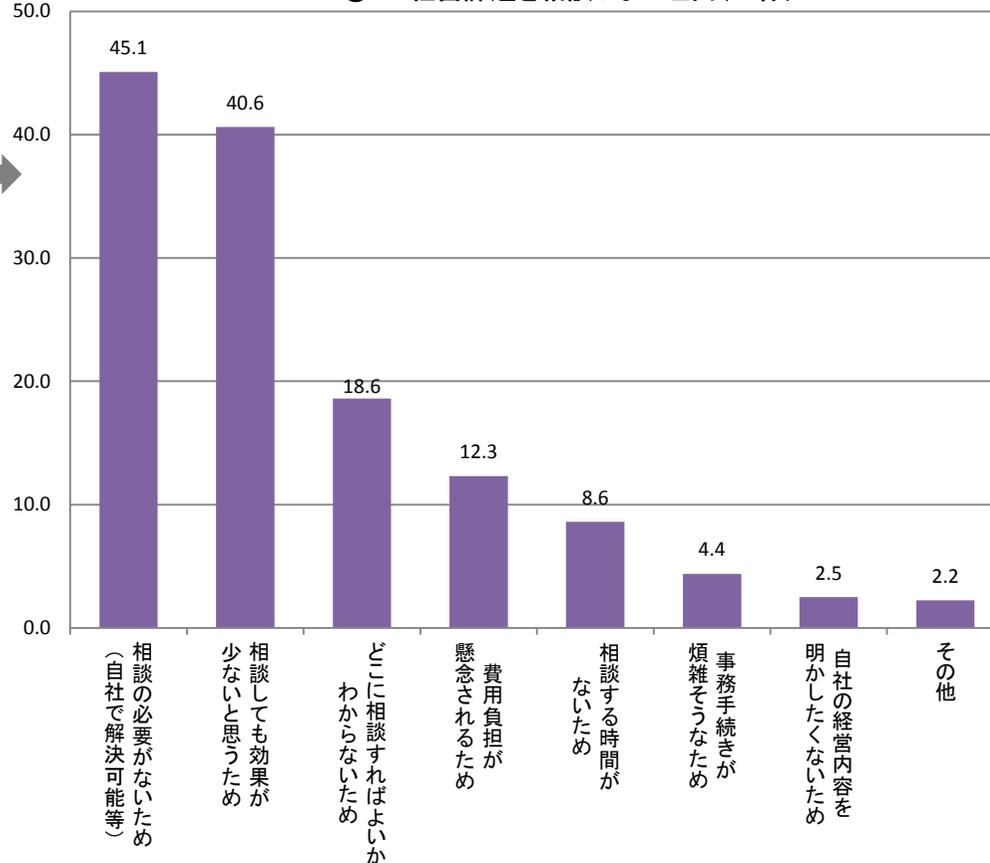
① 経営課題における相談相手



(注1) 複数回答のため、合計は100%を超える。

(注2) 回答割合の高かった上位5項目及び「相談している機関はない」を表示したものの。

②-1 経営課題を相談しない理由(全体)

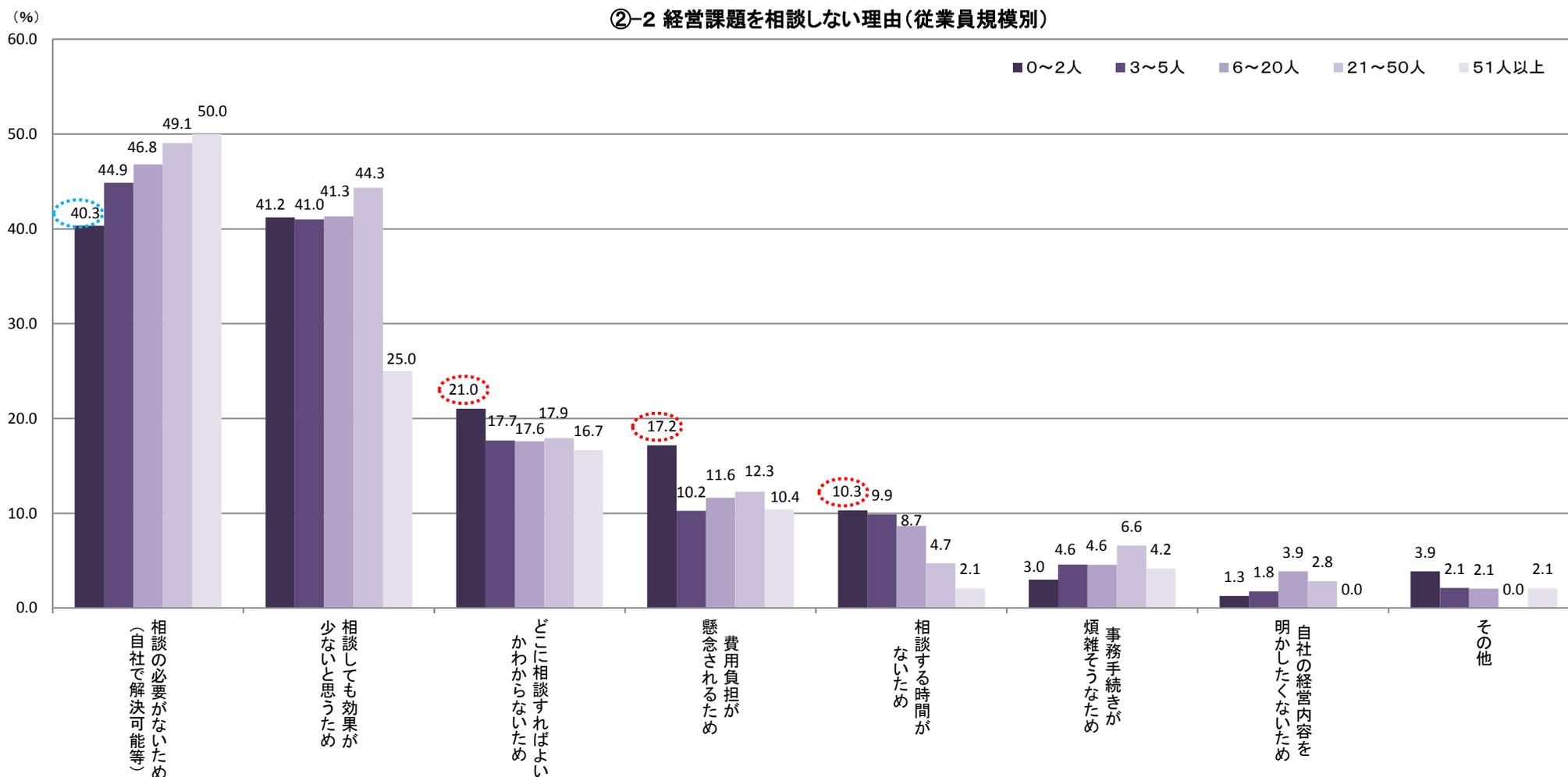


(注) 複数回答のため、合計は100%を超える。

特別調査

(2) 信用保証利用企業の経営課題における相談相手について (つづき)

・経営課題を相談していない理由を従業員規模別にみると、「0-2人」では、「相談の必要がないため(自社で解決可能等)」の割合は、相対的に低い。一方、「どこに相談すればよいかわからないため」、「費用負担が懸念されるため」及び「相談する時間がないため」の割合は、相対的に高くなっている。

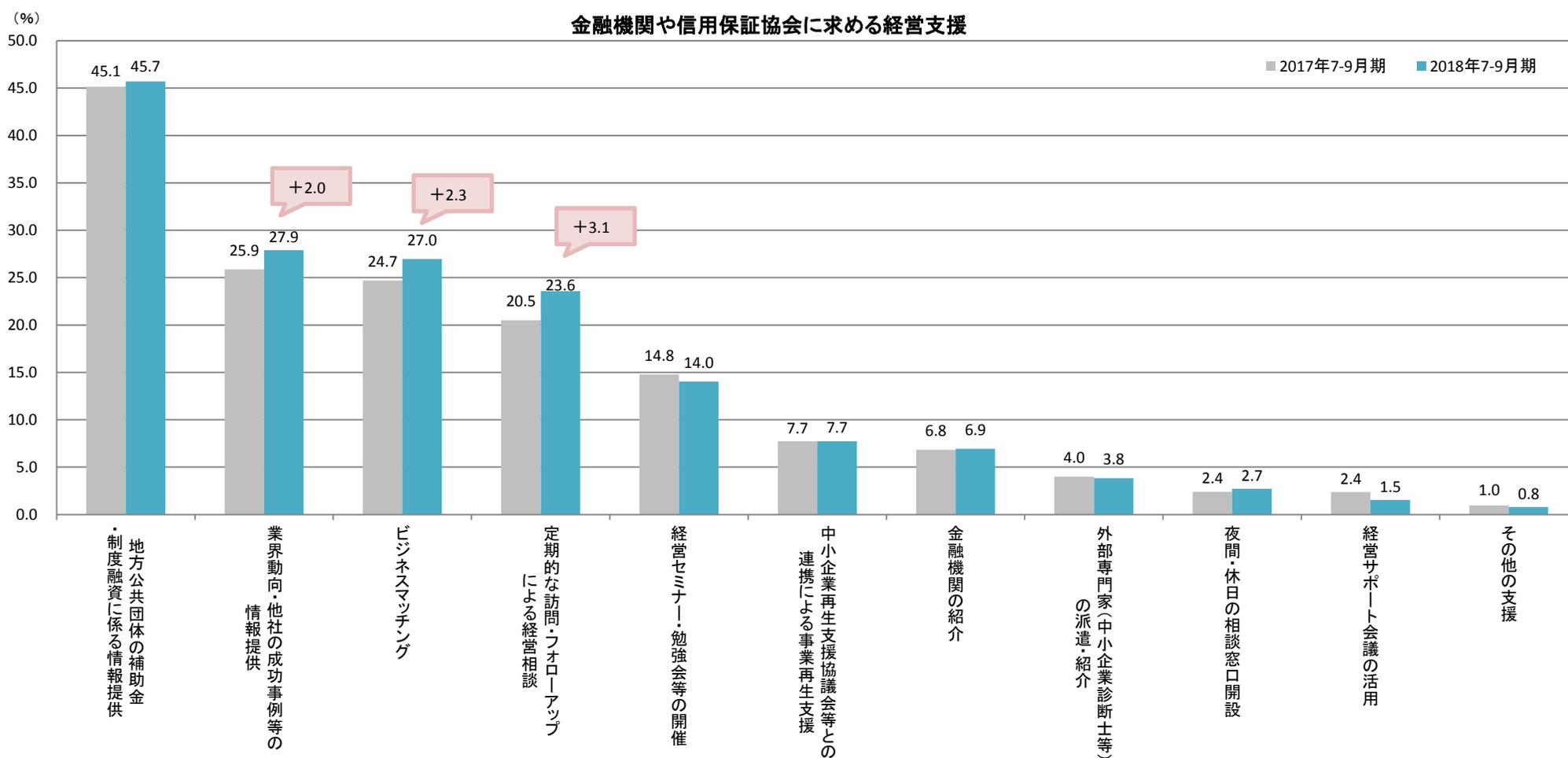


(注)複数回答のため、合計は100%を超える。

特別調査

(3) 金融機関や信用保証協会に求める経営支援について

- ・金融機関や信用保証協会に求める経営支援については、「地方公共団体の補助金・制度融資に係る情報提供」が最多。次いで、「業界動向・他社の成功事例等の情報提供」、「ビジネスマッチング」となっている。
- ・過去調査(2017年7-9月期)と比較すると、回答割合の差は「定期的な訪問・フォローアップによる経営相談」で、3.1ポイント上昇。次いで、「ビジネスマッチング」は、2.3ポイント上昇、「業界動向・他社の成功事例等の情報提供」は、2.0ポイント上昇となっている。



(注) 複数回答のため、合計は100%を超える。